

『 術後疼痛管理 』

研修会実施報告

日時 : 令和6年1月11日(木) 08:30~12:30
対象者 : ラダーレベルIを目指す者
参加者数 : 20名
目標 : 麻酔および手術侵襲に対する生体反応を学び、術後疼痛の観察と看護技術を理解し、術後せん妄ケアの看護実践に活用することができる

<講師の紹介>

特定看護師
中央手術室
主査



<内容>



区域麻酔、鎮痛剤（iv-PCA、末梢神経ブロック、NSAIDs、アセトアミノフェン）の種類と効能、「いたい」「さむい」「きもちわるい」の術後合併症が起る要因、ケアのポイントなど様々な内容について講義していただきました。

特に術後合併症の「いたみ」は、身体活動の低下を起すだけでなく、認知的・心理的、社会的に影響を与え患者のQOL低下に繋がります。そのため、痛みのアセスメントを行い適切なタイミングで適切な鎮痛剤を使用することが重要になると学ぶことができました。受講生からは、「痛みにだけ目を

向けるのではなく何から起っているのか、何の方法が最適なケアなのか広い視点、背景をみて考えなければならないと思った」という意見がありました。当院でも質の高い疼痛管理、術後患者の安楽と早期回復を目的に2023年度より術後疼痛管理チームが活動しています。

「痛ければ痛い」と患者が堂々と訴え、医療関係者はそれに対して謙虚な気持ちで十分な医学的理解のもとに鎮痛を行う環境を作る」という講義中の言葉を大切に、今回の学びを術後疼痛管理に活かすことを期待しています。